

令和8年産

大崎麦作情報 第1号

令和7年10月9日発行

宮城県大崎農業改良普及センター

TEL0229-91-0726 FAX0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～令和8年産麦の安定生産に向けて～

- 生育量を確保するため、播種晩限の10月20日までに播種しましょう。
- 前年雑草が繁茂したほ場では、除草剤による対策を行いましょう。
- 生育調節のため、麦踏みを行いましょう。
→麦踏み（踏圧）：年内1回、越冬後1～2回が目安

○年内の栽培ごよみ

時期	10月			11月			12月		
項目	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ			(播種後約10日) 出芽			幼苗期 (2～3葉期)			
主な作業		播種 除草剤散布 (非選択性茎葉処理剤・土壌処理剤)					麦踏み(越冬前)	除草剤散布 (茎葉兼土壌処理剤)	

年内中に1回
行いましょう！

○年内目標生育量

葉数：5～6枚、分けつ：1～2本/株、茎数：400～500本/m²

東北太平洋側 1か月予報 (10月4日から11月3日)

10月2日仙台管区気象台発表

<向こう1か月の確率(%)>

	低(少)	平年並	高(多)
【気温】	20	30	50
【降水量】	20	40	40
【日照時間】	40	30	30

<気温経過の確率(%)>

	低い	平年並	高い
1週目	10	20	70
2週目	20	30	50
3～4週目	20	40	40

1 ほ場準備

(1)排水対策

麦は湿害に弱い作物です。明きよと暗きよを適切に施工して排水対策を行いましょう。

○明きよ

- ・溝の幅、深さは20～30 cm程度とし、後の作業に支障がない程度としましょう。
- ・明きよと排水溝は必ず連結させましょう。
- ・排水不良のほ場は、ほ場内にも5～10mの間隔に1本の割合で明きよを掘り、ほ場外へ排水できるようにしましょう。

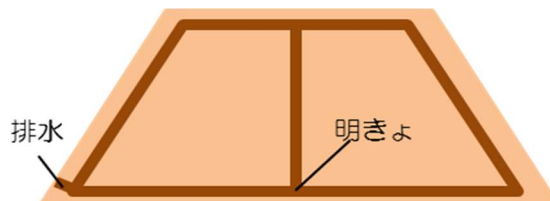


図1 明きよの施工例

○暗きよ

- ・本暗きよと補助暗きよ（弾丸暗きよや心土破碎）を組み合わせ、排水の効果を高めましょう。

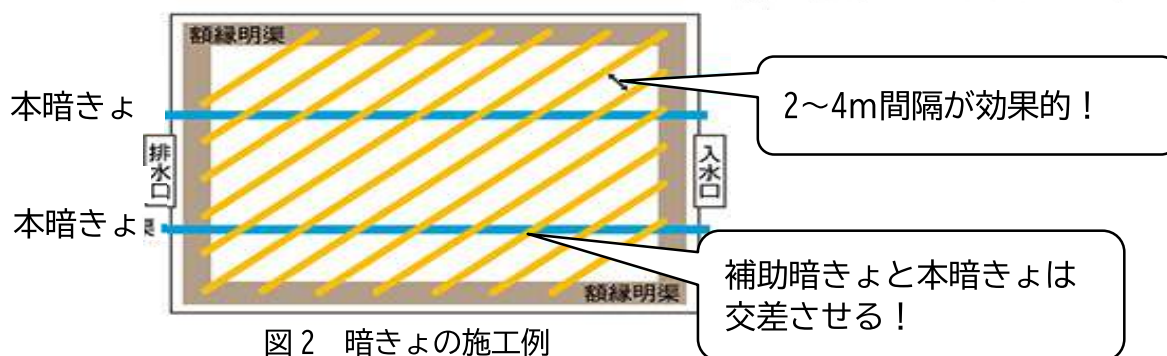
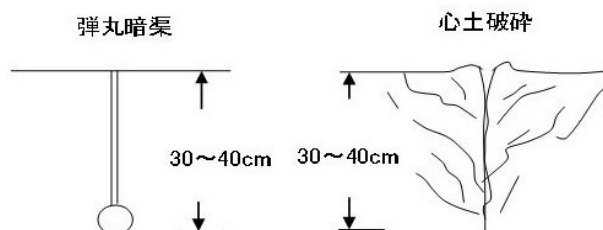


図2 暗きよの施工例

(2)土づくり

○酸度矯正

麦は微酸性～中性の土壤酸度を好みます。

定期的に土壤診断を受け、土壤酸度を調整しましょう。

目安：pH5.6～6.5（小麦） ※転換畑の土壤酸度は通常 pH5.0～6.0 程度

○地力増進

毎年堆肥等を投入し、地力維持に努めましょう。

有機物は土壤の物理性改善、微生物の増殖、緩効的養分供給の効果があります。

目安：稲わら・籾殻等が主体の堆肥…2t/10a 程度

牛ふん堆肥（窒素含有率1%程度）…1t/10a 以内

豚ふん堆肥（窒素含有率2%程度）…500kg/10a 以内

(3)基肥

○10aあたりの標準施肥量

窒素 8～10 kg、リン酸 8～10 kg、加里 10 kg

※稲わらをすき込んだほ場は、窒素を1～2割増で施用してください。

2 播種

(1)適期播種

播種晩限…10月20日（北部平坦地域）

播種が遅れるとさまざまな弊害があります。

適期播種を行い、越冬前に十分な茎数を確保しましょう。

播種遅れによる弊害

出芽遅れによる初期生育量の不足、根張りの不良、茎数不足、出穂のバラつき、未熟粒の発生等が挙げられます。

その結果、収量と品質の低下に繋がります。

(2)播種量・播種方法

○播種量：8～10 kg/10a（ドリル播き）

播種時期が10月20日を過ぎる場合は、茎数確保のため、播種量をやや多めにしましょう。

○播種方法（ドリル播き）

条間は15～30 cm、播種深度は3 cmが目安。播種作業にあたっては、碎土を入念に行い、覆土不良や浅播きにならないよう注意してください。



写真 ネズミムギの幼植物と出穂期

3 雑草防除

麦連作ほ場を中心に麦作の難防除雑草であるネズミムギ（イタリアンライグラス）の発生がみられます。前年の発生が多かったほ場では**土壌処理剤**を散布し防除しましょう。

土壌処理剤の効果を上げるためには、ほ場の碎土率を70%以上とすること、適期散布・適度な土壌水分時の散布を心掛けましょう。土壌乾燥時に散布する際は、登録範囲内にて希釈水量を多くしましょう。

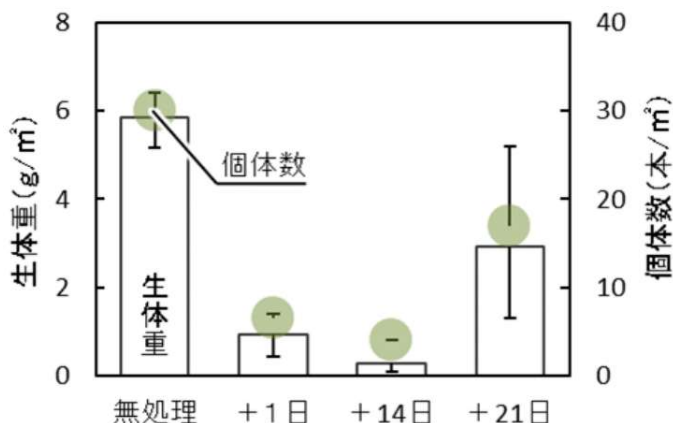


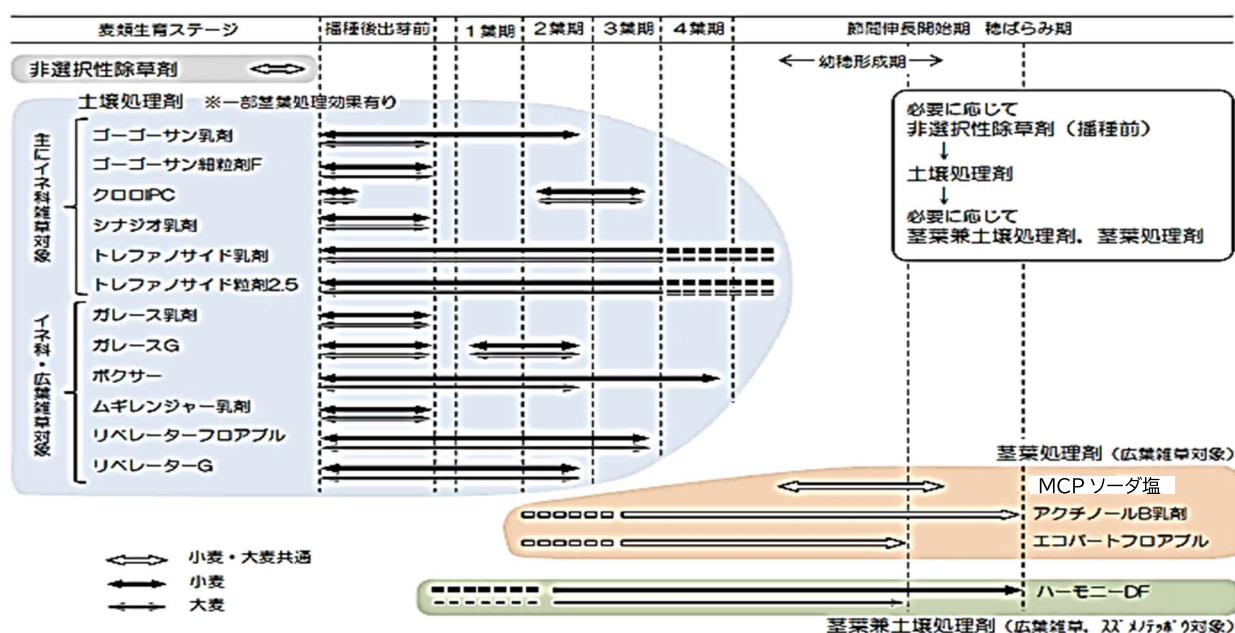
図3 リバレーターフロアブルのネズミムギへの防除効果（平成30年 古川農試）

注1） +○日は、大麦の播種後日数を示す。
処理日：10/28(+1日)、11/10(+14日)、11/17(+21日)

注2） 残草調査は、4/4（播種後160日）に実施

※ネズミムギ対策としては、リバレーターGやボクサーも比較的效果が高い。

図4 麦類（小麦）の雑草処理体系（イネ科・広葉雑草対象）



みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針（Ver1.1）より

農薬を使用するときは、生産者自身が農薬のラベルを必ず確認してから使用しましょう。

4 麦踏み(踏圧)

耐寒性、耐干性強化などのために麦踏みを行いましょう。

○作業時期：越冬前の12月上～中旬（ほ場に凍結層ができる前）

※2回目以降は3月上・中旬（生育が再開する再生期以降）に行いましょう。

○生育状況：離乳期（3～4葉期）～茎立ち前（主稈長2cm、幼穂長2mm程度）

※幼穂長が3mm以上になると麦の生育に悪影響を及ぼすので注意しましょう。

麦踏みの主な効果

○麦への効果

耐寒性、耐干性の強化、徒長や茎の早立ちの防止、分げつの増加、分げつ相互の生育調整、穂揃いの均一化、深根化、稈の強剛化

○土壌への効果

霜柱、干害による被害の軽減、強風による土移動の軽減と防止

遅まきの場合、麦の生育量が足りず茎が折損する恐れがあります。

また過湿ほ場の場合、耕土を固結させて根の発育を阻害する恐れがあります。

いずれも逆効果なので、麦の生育状況とほ場の状態に注意してください。

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（9月1日～11月30日）◆◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用、③トラクターへの安全フレーム・安全キャブの使用の呼びかけを行います。

重点推進テーマ 「徹底しよう！農業機械の転落・防止対策」

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索、または右のQRコードを読み取ってください。

